

メインシンポジウム | 特別講演

脳卒中患者の老年口腔医学

座長:佐藤 裕二(昭和大学歯学部高齢者歯科学講座)

Fri. Jun 22, 2018 2:10 PM - 3:40 PM 第1会場 (8F 大ホール)

【略歴】

1982年 広島大学歯学部卒業
1986年 広島大学大学院 (歯科補綴学1) 修了
1986年 広島大学歯学部附属病院助手
1988年~1989年 米国NIST客員研究員
1990年 広島大学歯学部講師
1994年 広島大学歯学部助教授
2002年 昭和大学歯学部教授 (高齢者歯科学)
日本老年歯科医学会指導医・常任理事
日本補綴歯科学会専門医・指導医
日本口腔インプラント学会指導医
日本顎関節学会専門医・指導医
日本歯科医学教育学会常任理事

【抄録】

死因の第一位であった脳血管疾患は1980年には悪性新生物に抜かれ、1985年には心疾患に抜かれ、2012年頃には肺炎に抜かれ、死因の第4位となった。これは決して脳血管疾患が減少しているためではなく、救急医療 (脳卒中ユニットや血栓溶解療法など) の充実による生存率の向上による。一方、脳血管疾患が要支援・要介護の原因の第一位を占めるようになり、今後も増加が懸念される。そのため、歯科治療のニーズもさらに高まってくると考えられる。そこで、関連3学会で共催シンポジウムを企画した。

日本有病者歯科医療学会からは岩淵博史先生を、日本障害者歯科学会からは平塚正雄先生を、日本老年歯科医学会からは古屋純一をご推薦いただき、全身管理、歯科的対応、口腔機能低下への対応といった、3つの方向からのご講演をいただき、討論を行う。会員各位の脳卒中患者への総合的対応能力の向上に繋がるものとする。

[MS1-3]地域でつなぐ脳卒中患者の口腔機能管理

○古屋 純一¹ (1. 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科地域・福祉口腔機能管理学分野)

【略歴】

1996年 東京医科歯科大学歯学部卒業
2000年 同大学院修了 (高齢者歯科学)
2005年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学第一講座助手
2008年 同講師
2010年 同有床義歯補綴学分野准教授
2013年~2014年 Harvard School of Dental Medicine 客員准教授
2014年 岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座准教授
2015年 東京医科歯科大学大学院教授

高齢者に多い脳卒中は口腔機能を低下させ、摂食嚥下障害を惹起するだけでなく、その療養生活も長期になりやすいため、今後の高齢者医療・介護・福祉における重要な課題の1つである。

脳卒中患者では急性期に誤嚥を伴うことも多い。誤嚥性肺炎の予防および経口摂取確立の観点からは、早期からの摂食嚥下リハビリテーションが重要であるが、口腔の問題により難渋することも多い。そのため、急性期から多職種が連携し、柔軟に役割を変化させながら、多職種で口腔を管理し、患者の口腔機能を最大限引き出すことが大切である。また、急性期での疾病治療や回復期リハビリテーションが終わっても、在宅や施設での療養生

活は続いていく。そのため脳卒中患者の口腔機能管理では、急性期から回復期や生活期を見据えたシームレスな地域連携が重要である。

本シンポジウムでは、急性期における多職種連携や、回復期・生活期との地域連携を含めた本学の取り組みを紹介し、脳卒中患者の口腔機能管理について改めて皆さんと考えてみたい。